

# わが街 ザ・ドクター

IMS(イムス)グループ  
医療法人社団明芳会  
板橋中央総合病院

理事長・総院長  
**中村哲也**



## 医療・介護・福祉の一体型 システムの構築をめざして

高齢化が進み、4人に1人が65歳以上といわれる現在、約800万人いる団塊世代が75歳以上となる2025年以降は、医療や介護の需要がさらに増えるといわれている。そのため国は2025年を目処に、重度な要介護状態になっても、人生の最後まで住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供

される「地域包括ケアシステム」の構築を推進している。そうした中で「ハードもソフトも含め、医療・介護・福祉を融合させた一体型システムをつくりたい」と話すのは、板橋中央総合病院(東京都板橋区)をはじめ、国内外で医療・介護事業を展開するIMS(イムス)グループの中村哲也理事長。現在、東京都の委託を受け、東京都健康長寿医療センターに隣接する新たな福祉施設を建設中だ。

3面に続く

# わが街 ザ・ドクター

1面より続く

## 国内外に誇れる 東京の福祉施設を

板橋中央総合病院の前身である板橋中央病院(東京都板橋区小豆沢・ベッド5床)は、1956(昭和31)年に、中村哲也理事長の父が開設。その後、誰もが医療にかかれるようにと、医療提供の少ない地域に病院をつくり、いまや国内に病院34施設、クリニック15施設、看護学校2施設、介護老人保健施設(老健)15施設、特別養護老人ホーム(特養)1施設、有料老人ホーム3施設、ハワイ・ナーシングホーム1施設、合わせて71施設(2013年5月現在)を束ねるIMS(イムス)グループへと発展した。

一般に、病院の医療機能は、治療中心の急性期、機能回復中心の回復期、療養中心の慢性期に分けられる。板橋中央総合病院は、月に平均して約700台の救急車を受け入れる急性期病院だが、高齢化が進む中、中村医師は、慢性期はもちろん、介護や福祉も視野に入れた医療提供体制の必要性をいち早く感じていたという。

「とくに高齢者の場合、病気になってから回復する過程においては、急性期とか慢性期とかの境界線は引きにくいものです。救急車で運ばれたその日のうちに、介護が必要になったり、生活支援が必要になったりすることもあります。

どんな状態であれ、その人の

その時々々の状態に応じた全人的な治療やケアを提供するには、多職種連携というより、多職種一体型のシステムが必要だと思っています。」

来年の秋には、東京都の委託事業として、新たなスタイルの医療・介護・福祉を実現する特養をオープンさせる。高齢者の触れ合いの場であり、高齢者介護の研修の場であり、近隣の人の憩いの場であり、災害時の避難所にもなるような設計が特徴だ。

「誰もがイキイキと暮らせるボーダレスな施設をつくり、東京都の地域包括ケアシステムの拠点として、国内外に新たな情報発信ができるようにしたい」と話す中村医師は、アジア慢性期医療協会の理事長でもある。日本のあとを追って高齢化が進む韓国や中国、台湾などアジア諸国の高齢化対策の大本となる取り組みに情熱を傾ける。

認知症の父を看取った経験から生まれた思い

その情熱と行動力の背景には、認知症を患った父の闘病と看取りの経験があった。最近では、認知症の人への対応のしかたや地域の見守りなど、認知症に対する理解が進んでいるが、10年ほど前は、医療者でありながら理解が不十分だったと振り返る。



額縁は、創立者で父である中村哲夫博士。銅像は、祖父の中村末吉像、祖母の中村よしの像。

IMS(イムス)グループ  
医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院  
理事長・総院長 **中村哲也**

(なかもらてつや)  
1989年帝京大学医学部大学院修了。90年帝京大学医学部第2内科退職後、医療法人社団明芳会板橋中央総合病院入職。91年同病院院長就任、2002年板橋中央看護専門学校校長就任。06年IMSグループ理事長就任。07年板橋中央総合病院総院長就任、09年IMSグループ横濱国際看護専門学校校長就任、10年社会福祉法人明東会理事長就任。アジア慢性期医療協会理事長、全国公私立病院連盟常務理事、日本私立病院協会副会長、日本慢性期医療協会常任理事など。医学博士。

たとえば、持つてきてはいけない物を持つてきた父は、持つてきた理由も、持つてきたこと自体も忘れていた。それなのに、どうして持つてきたのかと聞かれるので悪者にされたといぶかしく思い、攻撃的になったり、人を信用しなくなったりする。しだいに人前に出ていけなくなったり、足腰が衰えて行動範囲が狭まり、認知症が悪化する。やがて誤嚥するようになる。寝たきりになる、さらに認知症が悪化する、という悪循環に陥った。

そんなある日、中村医師は気づいた。認知症の人は、いろいろなことがわからなくなっているのではなく、目で見たいもの、鼻でかいだ匂い、耳で聞いたこ

●医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-12-7  
TEL:03-3967-1181  
ホームページ <http://www.ims.gr.jp/itabashi/hp/>

●IMS総合サービスセンター(通称:イムスGSセンター)  
専門医療技術や特殊な診療、IMS医療機関の紹介、退院や転院先の相談と調整、二次健診の相談、老人保健施設の紹介、海外からの受診など、医療・介護に関わる様々な相談に対して、専任スタッフと医療ソーシャルワーカーがサポートする。

●お問い合わせは、来訪、電話またはメールにて(相談料は無料)

IMSに  
☎0800-800-1632  
※[050]から始まるIP電話、国際電話からは利用不可。  
☎03-3989-1141(代表)  
平日8:30~17:30 土曜日8:30~12:30(日祝・年末年始は休み)  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-21-11 オーク池袋ビルディング 8F  
E-mail: [gscenter@ims.gr.jp](mailto:gscenter@ims.gr.jp)  
ホームページ <http://www.ims.gr.jp/gsceneter/>

となど、獲得した情報が何なのかかわかるまでに相当な時間がかかるだけだ。

「認知症の人は、すべてがスローですが、その人の尊厳を守り、喜びや悲しみに共感し、生きる力につながるような支えが大事だと痛感した。そして家族として、医療者として何ができるのかと考えたとき、医療・介護・福祉を合体させるべきだという思いに至りました。」

ここ数年、どんなに良いシステムができてても、一般の人たちが実際に利用できなければ意味がないと考えていたところ、「健診で悪い結果が出たが、どこで精密検査を受ければいいのか」「介護施設に入るには、どうしたらよいか」といった声が多く聞かえてきた。そこで、昨年1月、無料で電話相談できる総合サービスセンターを開設。コールセンター、ナビゲーション機能、サジェッション機能を兼ねた駆け込み寺のようなものだ。

「これからは一人ひとりのライフプランニングを提案していきたい」という中村医師の挑戦は、より良い未来へと続く。